



「交流自治体が舞台」特集



杉並の交流自治体が、実はあの映画のロケ地や、あの小説の舞台になっていたりします。

てくてく第9号は、「交流自治体が舞台」特集。なかなかお出掛けができない今、おうちで映画や小説を楽しみ、遠く離れた交流自治体に思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。そして旅行に行けるようになったら、ぜひ遊びに行きましょう。



新潟県
小千谷市

映画「峠 最後のサムライ」

▲長岡市・河井継之助記念館

平成18年に継之助の生家跡にオープンした長岡市の河井継之助記念館。継之助の旅日記「塵壺」やガトリング砲の複製などの展示品と分かりやすいパネルで、継之助の人間像や生涯を知ることができます。事前予約でボランティアガイドによる説明を聞くこともできるので、継之助について詳しく知りたい方はぜひ訪れてみてください。(長岡市長町1-甲1675-1)



ガトリング砲



慈眼寺山門



会見の間

◀慈眼寺

小説「峠」の著者・司馬氏も訪れたことのある慈眼寺には、「小千谷談判」と呼ばれる重要な会談が行われた「会見の間」が残っています。見学には事前の申し込みが必要です。(小千谷市平成2-3-35 ☎0258-82-2495)

▶東忠

築280年の老舗「料亭 東忠」には、継之助が新政府軍との会談後、昼食をとったとされる座敷が保存されています。現在も小千谷市の厳選された素材を使った創作日本料理を、居心地の良い空間でゆったりと味わうことができます。(小千谷市元町11-11)



東忠外観



音の舞妓の様子



2021.7.1

『峠 最後のサムライ』7月1日(木)全国公開

©2020『峠 最後のサムライ』製作委員会 配給:松竹、アスミック・エース

◎あらすじ

越後長岡藩士・河井継之助は、持ち前のリーダーシップで次々と藩政改革を行い、藩主の信頼を得ながら異例の昇進を遂げていく。やがて幕末の動乱の中、領民を守るために藩の武装中立を目指すのが、次第に北越戊辰戦争にのみ込まれていく。

役所広司さん

新型コロナウイルス感染拡大の影響で公開予定が二転三転しましたが、この度公開が決定しました。サムライという人間を後世に伝える為、生涯サムライであることを止めようとしなかった男、その生き方を美しいと思うか? 愚かと思うか? 現代の若者にもぜひ観て欲しいです。2021年7月1日の公開を楽しみにお待ちください。

転載元:映画『峠 最後のサムライ』公式サイト



小千谷観光協会 阿部さん

映画の話が来た時に、タイトルを聞いて小千谷市で絶対に受けたいと思いました。山の中の撮影が多く機材等の運搬が困難なため、地域の方々の協力を得て林道の雑木伐採を行ったり、軽トラックで機材等を運んだりしました。撮影スタッフから『こんな山奥でやったことはないけど、小千谷市の皆さんの協力で撮影が可能になった』との声をいただき大変うれしかったです。



実際にゆかりのある場所に足を運んでみると、自藩の領民や領地を守るために必死で戦った河井継之助たちの生き様を感じることができるとも思いません。小千谷市では、映画の公開に合わせてロケ地巡りツアーを開催予定とのことなので、小説や映画を観てから、ぜひツアーに参加してみたいと思います。

4面に「峠」の舞台になった古戦場などのフォトギャラリーを紹介しています

「てくてく」次号は4月発行予定です。区立施設窓口、駅広報スタンドなどでご覧いただけます。